

南あわじ市 平成 22 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(事業 委託 補助用)

I 基本事項

		整理番号	847
事業名	文化・スポーツ合宿誘致支援事業補助金	予算科目	会計 一般会計・1 款 商工費・7款 項 商工費・1項 目 観光振興費・3目
担当部課名	産業振興部 商工観光課		
電話	0799 - 37 - 3012		
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務 <input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)	南あわじ市文化・スポーツ合宿誘致支援事業補助金交付要綱
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	職 食 づくり 夢あふれ 働く場を生み出すまちづくり	
	まちづくりの目標	行って楽しい交流・感動の舞台【観光・交流】	
	施策目標	市民自ら地域の魅力を知り、あらゆる方面からみんなで発信し、南あわじファンを増やす	
該当する事業について「 」を選択		施策的事業	業務委託 <input type="checkbox"/> 負担金補助 <input type="checkbox"/>

II Plan (計画、事業内容、事業背景)

事業概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人に) 文化・スポーツ合宿の誘致を促進し市の観光振興を図るため、島外の高等学校、短期大学、大学または高等専門学校の学生で構成され、1回の合宿で宿泊者数が15人以上、かつ宿泊日数が2日以上である非営利団体。また、合宿の交通手段として自動車を利用した方に補助を交付する。 意図(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入) 明石海峡大橋または大鳴門橋の橋代相当額を補助し、合宿に使用いただく体育施設及び公民館等の料金を通常の3分の2で利用いただき、市内の文化・スポーツ合宿の誘致を促進し、市の観光振興を図っていく。		対象人数(人)
	実施内容	(何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか) 宿泊施設の代表者が市から認定を受けた合宿認定団体に合宿交通支援費を支払う。その合宿交通支援費として支払った金額を市が宿泊施設の代表者に補助金として交付する。 平成20年度 22件(289,500円) 平成21年度 8件(111,400円)		
	背景	(どのような現状・課題・要望によって事業が実施されるに至ったか、他の自治体の動向など) 明石海峡大橋完成した年に観光交流人口がピークをむかえ、それ以降観光客は減少の一途を辿っている。そのような状況において観光交流人口の増大を検討する中で、南あわじ市は複合施設を初めグラウンド、体育館等が多数整備されており、また、その周辺には宿泊施設も充実していたことから合宿に適していると判断した。合宿に参加した方が、将来的にリピーターとなってもらうことを期待して本事業を始めた。		
	事業実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市直営 <input type="checkbox"/> 民間・その他 ()		
事業期間	<input checked="" type="checkbox"/> 平成 20 年度 ~ 平成 22 年度 <input type="checkbox"/> 設定なし			
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯) <input type="checkbox"/> 旧緑町 <input type="checkbox"/> 旧西淡町 <input type="checkbox"/> 旧三原町 <input type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input checked="" type="checkbox"/> 新市から			

Ⅲ Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

事業に対する 目標の設定	指標名	合宿参加者数					指標単位
							人
	指標説明 (指標算出 方法等)	合宿に参加し、宿泊した人数。					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	目標値		300	300	300	300	
	実績値		671	264			
	達成度 (%)	-	223.7	88.0	-	-	
	目標値設定 の考え方						
資源配分 (インプット)		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	
	直接事業費 (千円)	0	500	300	300	300	
	文化・スポーツ合宿誘致支援事業補助金		500	300	300	300	
	財 源 (千円)						
	国						
	県						
	起債						
	その他						
	一般財源[A]	0	500	300	300	300	
	人件費(正規職員)[B] (千円)	0	1,395	564	0	0	
	平均人件費(1日当り)	30.1	27.9	28.2	27.4	27.4	
	事業量1(事業に要した日数)		50	20			
事業量2(事業に要した人数)		1	1				
年間経費([A]+[B])	0	1,895	864	300	300		
「目的」対象人数1人当り経費 (円)	-	-	-	-	-		
経費に関する 補足説明	平成21年度まで決算額。平成22年度以降当初予算額。						

IV Check (事業の自己評価・一次評価)

		単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
達成度	目標達成度	%	-	223.7	88.0	-	-
	(事業目標の達成度分析、問題点・課題などを記入。) 平成20年度においては目標値よりはるかに高い実績をあげた。 前年度は目標値を下回った。高速道路の土日1,000円を受け、各合宿団体がより遠くの施設を利用し易い状況にあったためである。						自己評価 (5点評価)
							3
有効性	(住民満足度の分析、問題点・課題などを記入。) 南あわじ市の魅力を伝えるためには、実際に市内に来てもらうのが有効である。 本年度は高速道路無料化社会実験が実施されるに伴い、多くの合宿団体を誘致することについて課題を残しているが、南あわじ市を検討している合宿団体を後押しできる効果的な事業である。						自己評価 (5点評価)
		単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
効率性	事業単価	円	-	-	-	-	-
	(効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。) 大学等の合宿団体は全国各地から学生が集まるため、合宿に参加した学生からの評判が様々な方面へと伝わると推察される。コスト面から見て効果は大きい。						自己評価 (5点評価)
							4
必要性	公共性の高低	<input checked="" type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低			
	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 観光立市「南あわじ市」を目指すためには必須と考える。 様々な団体が市内を訪れることが観光に対する市民の意識向上も期待される。						自己評価 (5点評価)
							4
総合評価	自己評価をふまえた現状分析						
	文化・スポーツ合宿誘致支援事業について、多くの団体を誘致するには工夫が必要である。高速道路料金が一律ではなかった平成20年度においては、多くの団体が本事業を利用したことから、南あわじ市での合宿のニーズはある。南あわじ市のPRには有効性は高く、今後も継続が必要である。		<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>評価グラフ</p> </div>				

V Action&Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成23年度にできる改善・改革	平成24年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し
	<p>南あわじ市で合宿を行いたい団体には、高速道路料金が障壁とならないように今後とも補助を行う必要がある。</p> <p>南あわじ市の魅力に触れてもらうことが、市のPRにつながる。</p>	同左。
(現状維持以外の改善方法)		
改善によって期待される効果 (現状維持以外の場合)	効果(アウトカム)面	効果(アウトカム)面
	コスト面	コスト面
(現状維持の場合も記入)	仮に 事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面) 南あわじ市が観光立市となるためには、市の魅力を発信する人が市内外にいる必要がある。平成20年度より始めた本事業は、実際に合宿団体に市に訪れ、魅力に触れてもらい、将来的なりピーターを確保すること、強いては市の魅力を島外に発信してもらうことを目標としている。 よって、事業継続が必要と考える。 事業中止・廃止をした場合、合宿団体は高速道路料金が安価な地域で合宿を実施すると考える。また、南あわじ市の魅力を理解してもらえず、今後更なる観光交流人口減少が考えられるため、継続されることが望ましいと考える。	